

平成 23 年度富山県環境審議会水環境専門部会 議事録

1 日時

平成 24 年 2 月 14 日（火）午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分

2 場所

富山県県民会館 707 号室

3 出席者

委員：楠井専門部会長、大寺特別委員（代理：鍛冶富山河川国道事務所河川環境課長）、
加賀谷専門員、木幡専門員、高橋専門員、瀧本専門員、千葉専門員、陶野専門員
事務局：浦田環境保全課長 他

4 内容

報告 公共用水域及び地下水の水質の現況、クリーンウォーター計画の施策の実施状況
議事 平成 24 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について

5 主な意見、質疑応答

(1) 報告 公共用水域及び地下水の水質の現況、クリーンウォーター計画の施策の実施状況
[専門員]

地下水の水質について、自然由来の地下水汚染が見られるとの報告があったが、高濃度で推移しているのか。

[事務局]

自然由来の地下水汚染については、22 年度までの継続監視調査では大きな濃度変化は見られなかった。23 年度からは、自然由来の地下水汚染については、飲用対策が講じられていることにより、継続監視調査を実施しないこととした。

[専門部会長]

水質事故について、魚のへい死の原因は判明しているのか。

[事務局]

魚のへい死は、平成 22 年度は 3 件あった。うち 2 件については原因は不明であった。残る 1 件は酸欠と推定された。

[専門部会長]

水生生物保全環境基準設定に関する基礎調査の内容は、どのようなものか。

[事務局]

同環境基準項目である全亜鉛に関する水質調査を環境基準点で実施しているほか、河床構造等の河川の状況や水生生物の生息状況に関する調査を実施しており、結果は現在整理中である。

(2) 議事 平成 24 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について

[専門員]

高橋川の水質環境基準点の変更について、海水の影響を受けるとの説明があったが、採水の深度はどれだけか。

[事務局]

河川での採水は、表層で実施している。

[専門員]

今回、補助測定点の多くを廃止することとしているが、廃止する際の考え方等については、水質測定計画に記載されるのか。計画本体に記載されないとしても、付録のような形で残すなど、後々廃止の理由が分かるように保存すること、公表することを検討してもらいたい。

[事務局]

水質測定計画への記載は考えていない。何らかの形で公表・保存について検討したい。その方法等については、後日相談させていただきたい。

[専門部会長]

誰でも分かるように、資料を残してもらいたい。

[専門員]

資料 2 - 3 の①の考え方について、「概ね環境基準を達成していること」とあるが、例えば、23 年度の水質が環境基準を達成していることを確認することにより、「概ね」を削除することはできないのか。

[専門員]

直近の 23 年度の水質についても確認して、絞り込みを検討する必要がある。

[事務局]

23 年度の水質については現在のところ問題はない。23 年度までの水質により環境基準の達成状況を確認し、「概ね」を削除したい。資料の公表等においては、23 年度のデータを追加したい。

[専門員]

西部排水機場等については海域の見直し等の際に絞り込みを検討するとの説明があったが、海域の見直し等について具体的な予定があるのか。

[事務局]

海域についても、環境基準の類型指定の見直しや測定地点の見直し等が必要か、今後整理したいと考えている。スケジュールは未定である。

[専門員]

今年の冬は降雪量が多く、融雪水の河川への流入による水質への影響が考えられるが、水質悪化は見られないか。

[事務局]

近年、降雪量が比較的多いが、BOD等の水質に悪化傾向等は特に見られない。しかし、融雪水の河川への流入による水質への影響については、今後注視してまいりたい。

[専門員]

平成 18 年豪雪や 56 豪雪の際など、他県では影響が見られた例がある。過去に遡って水質を確認してみる必要もある。

[専門員]

積雪による水質への影響は確かにあると考える。河川流量も確認して、負荷量で見てみる必要がある。豊水時の水質をおさえると、雪の影響も見えてくる。

[専門員]

測定地点の絞り込みや重点化など、水質測定計画の内容を毎年見直すのか。

[事務局]

水質測定計画は毎年作成することとなっており、基本的には直近のデータに基づいて、毎年見直すべきものと考えている。

[専門員]

補助測定点の水質データはどのように活用されているのか。

[事務局]

環境基準の達成率には反映していないが、個々に環境基準への適合状況を確認している。

[専門員]

本来は、環境基準点及び補助測定点の設定のそもそもの理由を確認して、測定地点の絞り込みを検討する必要があるのではないかと。

[事務局]

補助測定点の設定の理由を資料 2-4 に記載しており、これも考慮して補助測定点の絞り込みの原案を作成した。

[専門員]

補助測定点等の水質については、今回は BOD、pH、DO、SS について確認しているが、大腸菌群数のデータも確認する必要はないのか。

[事務局]

補助測定点では大腸菌群数を測定していないため、BOD 等について確認した。

[専門員]

資料 2-3 の④イの「利水上重要な測定地点ではないこと」について、水域類型が指定されていない支川の補助測定点の「環境基準が設定されていない」は、丁寧な表現に修正されたい。

[事務局]

利水上重要な河川ではないことから、「環境基準が設定されていない」と記載したものである。公表等の検討にあたっては、分かりやすい表現に修正したい。

- 平成 24 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画については、県の原案のとおりとすることとされた。

以上、議事内容に相違ありません。

富山県環境審議会水環境専門部会長 楠井 隆史